

# 経営の見える化

## 一部品ごとの労働生産性を把握！ システムの改良プロセスが人材育成に

愛知県大府市・自動車部品製造

半谷製作所の場合



代表取締役社長 半谷眞一郎氏(写真中央)  
取締役 管理本部長 糟谷好伸氏(写真左)  
総務部 総務課 安全衛生環境サブリーダー 新垣綾翼氏(右)

**自** 自動車のABCカーアクセル、ブレーキ、クラッチという、高い信頼・技術レベルが求められるセーフティーパーツ・足廻り部品を得意とするのが、愛知県の半谷製作所である。一次サプライヤーとして、自動車メーカーの設計部門と積極的に意見を交わし、図面提案を行っている。

### 「変化」を前提に ITでスピード感を

かつてはエアコンや航空機の部品を手がけた時期もあり、自動車部品に関しても内容は10年間で60%は変化しているという。

「歴史を見ても、変化」は世の道理です。今の仕事が10年後になくなって生きていける会社であるよう、従業員を育て投資をしていくことが大切です」

半谷眞一郎社長が重視するのは、変化を前提とした人の成長と改革

### 会社概要

#### 株式会社 半谷製作所

- 本社：愛知県大府市北崎町大島13-3  
衣浦工場：愛知県半田市洲の崎町2-7  
中国とインドネシアに現地法人あり
- 設立：1936年
- 従業員数：174名
- 事業内容：自動車・冷熱の部品製造
- URL: <http://www.hanya-net.co.jp/>

プレモフォーシング®…金属の板から作るプレス加工と、金属の塊から作る鍛造加工を融合し、プレス機で鍛造品のような形を創る工法。切削品と比べ3~4割のコスト削減が可能。



衣浦工場の様子



まで把握できるようになった。もちろん一朝一夕に実現したわけではない。生産管理システム導入から10年近くかけて、段階的にブラッシュアップしてきた。

総務部総務課の新垣綾翼氏は次のように振り返る。

「まずは現場が、生産管理板と名づけたシートに毎日の実績を記録し、データ化して時間当たりの出来高(個数)を見える化しました。システムが使いにくい部分はデータベースを作って改良したり、欲しい数字がすぐ取れるようExcelのマクロを組んだりしました」

半谷社長が導入の号令をかけた、活用や改良は、従業員が主体となって進めた。「10年後に主役とな



れる人材を育成したい」という方針に沿った体制だった。

「毎月の会議では、労働生産性の目標と実績を画面に写し、皆で見ます。原因となる機械の故障のことや改善方法など、活発に意見が出ています。システムは作りっぱなしではなく、成果物を皆で見るのが大切だと感じます」

取締役管理本部長の糟谷好伸氏

は、このように実感を話す。意見を出し合う会議の場があつてこそ、PDCAが回っていくのである。

同社を長年サポートしているARUの水口和美氏は、「このような積み上げ型のシステムは珍しい取り組みです。KPI(目標達成のプロセスに必要な指標)は変化するので、社内で改良できるのは大きい。推進にあたっては、半谷社長

### 生産情報はタブレットで 今後はIoTの活用も

昨年は、手書きの「生産管理板」をタブレットに置き換えた。現場の実績がシステムにダイレクトに蓄積され、実績把握や異常の検知もスピード化された。さらに、IoTに対応した機械の導入により、生産情報や機械稼働情報を自動収集することも予定している。

「日々、多様な仕事がある中で、

ITも取りこぼさず推進してきたことは胸を張れると思います。まだまだ発展途中ですから、引き続き取り組んでいきます」と糟谷取締役は話す。

同社は新事業開発へのトライアルも続けている。現在力を入れているのが、新工法「プレモフォーシング」(会社概要欄参照)である。

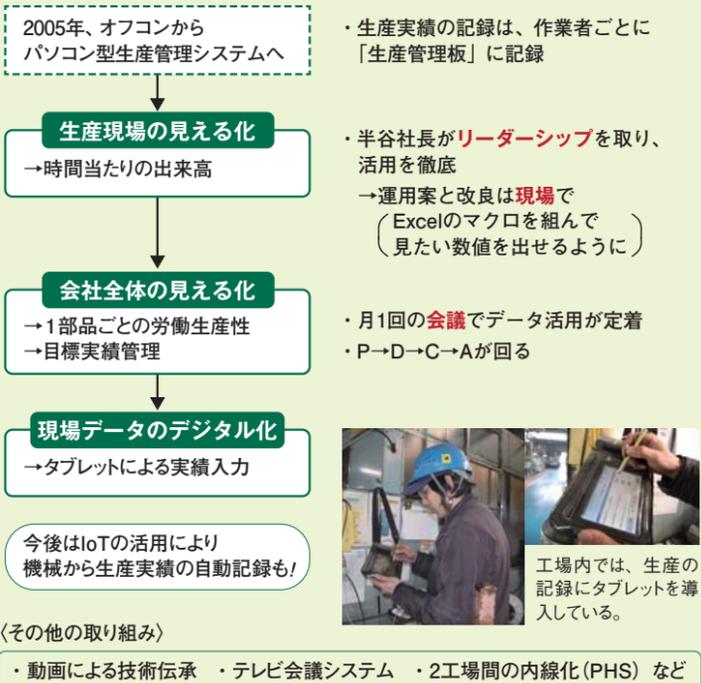
最後に、今後の事業展開について、半谷社長は次のように語った。

「プレモフォーシングの展開、既存事業ではさらに開発力を高めてお客様の中に入り込むこと、そして海外マーケットで貢献できることに力を入れていきます。その結果として、『この会社で働いてよかった』と思われる会社にしたい」

### スピード経営&人材育成

#### 半谷製作所のIT経営のステップ

##### <商品ごとの粗利管理と原因把握を実現>



### サポーター紹介



ARU 代表取締役 水口和美氏 (ITコーディネータ)

愛知県を中心に、多数の企業のIT経営実現を支援し、実績を上げている専門家。システム導入をとまなう経営改革支援はもちろん、幹部研修や後継者育成、新事業育成(イノベーション)をサポートする機会も多い。

所属するITコーディネータの組織であるNPO法人ITC中部では、地元企業を表彰する中部IT経営力大賞を継続的に実施しており、地域全体の活性化への基盤づくりにも寄与している(2011年度まで中部経済産業局主催で実施されたものをNPOが引き継いだ)。

半谷製作所とのかかわりは10年に及ぶ。新システムを使いこなすための支援は、将来を見据えた人材育成や社員主体の改善活動へとつながった。近年は、新しい取り組みを進めるための補助金申請などもサポートしている。水口氏は、同社が依頼した専門家の中でも付き合いが長いという。

半谷社長は、「何でも話やすく、上からものを言うようなことがない水口さんの人柄が大きい。さらにご指導いただき、お互い研鑽をしていきたい」と話している。

※システム構築と見える化イメージについては、後日Web記事にてご紹介します。